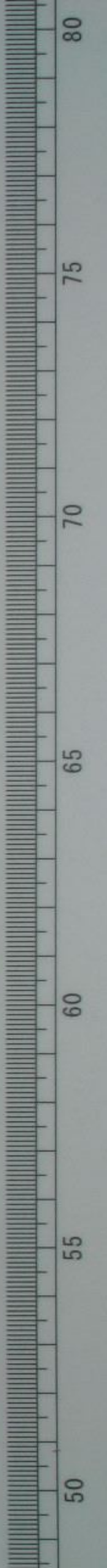


17 (先元) 中二 (下)

里の少壮等は初め阿袖と渠と相語らふを認めし可、變
物と知られし渠は身小心を可けさりし、西回三回さ
て数重なりて渠等西箇此親しげなるを見てしより次第
小姫の情を悩ま、させる事はありしをば私語り傳
へて、竟し阿袖は變物なる幸左と嫌めり變物男は怪し
くも美人の阿袖を獲たりし風聞、明らさま不幸左の耳
小入りし也。

夢は如く可なる情韻を聞き取りぬるを、猶さるほ
どは渠自己賞えたりし可、衆口は渠をして忽然として
酔ひ臥せるも此、醒めたる如くなせし、渠が情の谷は
唯乾涸たる荒野にひとりのを、始めうとくくしく
水は音遠く聞えたり、良久して是可、谷は流れくるが如
く聞えたり、やがて泉の水は渠が情の谷に流れ来り
、あるを識しぬ、今は渠が情の谷は愛此泉淙々として
湧くが如く流れ来りぬ。
阿袖は如く流るなりし渠は今化して羊の如
く對えて石より冷るなりし渠は今化して羊の如



親しん一いちげげ不ふ順じゆん不ふなりぬ。置おられたりと一いちもなき渠みち此こ心
 底そこ此こ果は實じつは今いま除とりれて心こころ猿さるは躍おどり意い馬ばは狂くるひそめぬ。
 唯ただ管くだ自然じぜんのままありけり渠みち不ふ勤きん勞らうは今いまたた俟まちつとあ
 りあ勞らう作さくととなりぬ。世よもまた自然じぜん不ふ行ぎやうき自然じぜん不ふ勤きんま
 て望のぞみはななりり渠みちは今いま一ひと箇つ此こ美みき愛あい此こ神かみ不ふ對たいひて事
 毎ごと不ふ舉き動どうふややふふなりぬ。渠みちは竟つひ不ふ衆しゆ人にん此こ口くちを實じつ不ふ
 て阿あ袖そでと離はなれ可たき愛あい情じやうを契ちぎひぬ。
 過こ去のち此こ勞らう作さく不ふ鞋かぶ心こころあり渠みちは愛あい情じやう不ふもまたいと切せつなり
 雲くも烟けりの如ごとく眼めを過すりたる阿あ袖そで不ふ對たいひ今いまは荊いさざり棘げきの中なか不ふ百
 合りやうせきふ花はなを得えて一ひと如ごとく滿まん腔かう此こ情じやうを奉ほうじて彼かの女にょ不ふ投なげた也なり。
 渠みちは眠ねれるときだに、その心こころは愛あい此こため不ふ醒さめぬた也なり。
 心こころ此こ聲こゑは呼よびぬ。阿あ袖そでは己おの可た佳よ耦ぐよ、己おの可た妹い子こよ
 己おの可た掌て此こ花はなよ、己おの可た天てん此こ月つきよ、己おの可た不ふまた無なく完ま全ん也なり。
 のよ、いい可た己おのれを抱いだけいい可た己おのれを庇おほへ。汝おのの眸めは
 櫻おう花はな此こ蒼そうのいろよりも美うきましき臉まへ不ふ停とりて春はるのみづより温ぬる
 な也なり。汝おの此こ華はなは飄ひらひひ此こ犀さい此こ如ごとく香かぐははき息いき通とははすそ可た
 紅くわん此こ唇くちびる此こひまより身みぬ。なんぢぢ可た髮あみは流ながるぬ濡ぬれた
 るよりも里くろくなんぢぢ此こ豊ゆたかふる頬ほは嫩もき花はなの床とこ此こ如ごとく馨かぐ

虫齋

ばしりり木存人の手は柔ら可なりて羨此芽の如くま
 ろら可なりて温る玉の如志。なんぢの肌は暗凝りて
 雪より清らなり。あ、蝨蟻の如きなんぢの領、名工
 の魂を注ぎて作らせた白玉彫物の如きなんぢの胸
 腹、胷眼、すべて汝此躰は已可胸印此如く刻せられ
 白銀も黄金も玉も世此いかなる寶もなんぢ不換ゆ下き
 此はあらばと。落花泥不塗れて雨絲風片春は逝く水此如く去ぬる頃、
 新緑梢不満ち樹陰清げ不麥も熟せむとせると共不、渠
 儂は全く其が性行を一變志、逢ふ人毎小情あり顔なる
 男となりぬ。渠は穠身此情を阿袖不寄せられば、挑み
 たり阿袖はいや深く渠と相愛志、彼女可親姻なる家
 不在る此日か既不短くなりけるをば、種々なる口實ル
 てなほ幾許の時日を経た也。
 されど彼女此家は父母二人のみありけん事不依りて
 呼び返へすへき時は来りぬ、阿袖も今は已可私情の爲
 小口實此方便ルなく、幸左と伉儷たるべき相互此契約
 古国く志、渠はそ可證標として彼女不亡き父此遺物な

20

財布を與へ、阿袖はそが秘蔵なる江戸家苞の人より
賤られたる鬘甲此櫛を贈り、涼棚の解近の夕小於て相
互此愛情を語り、行末を契りこめつゝ、須更手を分ちけ
るあり。

[A large empty grid area for writing, consisting of approximately 20 vertical columns and 30 horizontal rows.]